

布および繊維製品のコンピュータグラフィック画像の美しさに対する
視覚評価（第2報） —スカートにおけるイメージの再現性—
山田知里* 末久真理子* ○三木幹子** 綾田雅子* (*共立短大** 広島女学院大)

＜目的＞第1報において、CG画像により布地および繊維製品（カーテン）のイメージを再現することの可能性が実証された。本報では、実験対象としてセミタイトスカートとフレアースカートの2タイプを取り上げ、CG画像による布地とスカートの美しさの評価について検討を行った。

＜方法＞雑誌および市場調査を元にイメージの異なるプリント生地14種を選出した。次に、白色の綿布を用いてJIS9号サイズのセミタイトスカートとフレアースカートを製作し、グラフィックソフト（UP MODA 丸紅エレクトロニクス社製）を用いて、プリント生地14種を各スカートに合成した画像試料を作成した。実物生地サンプル、画像生地サンプル（実物生地を画像出力した試料）、およびスカート合成画像28種を用いて、スカートのイメージを表す形容語対10個に対する5段階尺度での官能評価を行った。

＜結果＞実物生地試料、画像生地試料およびスカート合成画像（セミタイトスカート、フレアースカート）の評価値について因子分析を行った結果、因子の内容に一致する点が多くみられた。差の検定および単相関係数から検討した結果、4種の試料にイメージの差がなく、また因子得点分布の位置関係からもCG画像による布のイメージの再現が可能であることが確認できた。以上のことから、細かな柄や風合い、厚さ等の特殊な性質を有する布地を除いては、グラフィックソフトを用いて、生地画像をスカート上に合成しシミュレーションすることの可能性が認められた。